

自動車・同付属品製造業における高温・低温物との接触災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
5	8~9	朝会終了後、一人急いで担当職場に戻り、金型の周囲に設置されている昇温機ガス栓を開け、ガスライターで点火後圧縮空気を送る栓を開けたところ、自分に向けて火が迫ってきたため避けようとしたが、顔及び右手部を受傷した。被災者は生産を早く始めようと作業責任者の指示が無いにもかかわらず、見よう見まねで作業を行った。（アルミホイール casting 工程）	53	50~99
6	11~12	本社工場内において、キャリアカーの製造業務に従事していた際、両手足に痺れが生じ、その場で横になる。（体温計測：38.6度）水分を取らせようとしたが二口程しか飲めず、指先が冷たくなった為、救急車にて病院へ搬送した。	32	10~29
6	6~7	本社 casting 場12号機において、停止していた casting 機を再立ち上げしようとしたところ、安全ドアを閉めず、且つ、金型の割面に立っていた為、溶解したアルミが作業着に飛び移った。慌てて、作業着を脱ごうとしたが手間取り、その間に背中に火が回り火傷した。	32	50~99
7	14~15	工場内で、フォークリフトによる運搬作業中、フォークリフトがオーバーヒートを起こしたため、ラジエターキャップを半分開けて様子を見た後、キャップを外した時、熱湯が噴出し左手にかかり受傷した。	47	100~299
7	1~2	派遣先において自動車部品の製品を casting 作業中、製品を金型から取り出した際、半固形だったため、溶けた材料が安全靴の中に入ってしまい、左足を火傷した。	19	30~49
7	2~3	チップ交換作業中、腕に力が入らないとチームリーダーに連絡し、冷房の効いた保全詰所で休ませ、組長に連絡した。組長から工長へ連絡し、経口補水液と冷たいタオル10枚を持参した。経口補水液をコップ半分飲み、脇の下等を冷やしたが、その後、両腕がつり始めた。その際、受け答えは、はっきりしていた。しば	47	1000~9999

		らくして、両腕に加え、両足もつり始めたため、工場内の救急へ連絡し、症状が悪くなってきているため救急へ連絡し、病院へ搬送した。		
10	18～ 19	本社鋳造3号機において、鋳造された製品がコンベアから落ちていたので拾おうとしていたところ、もう1つの高温の製品が落ちてきて、左手の甲に当たり火傷した。	60	50～ 99

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html